

福岡市教育センター G 研研究主題 「書き出し、書き表す力を育てる作文指導法の研究」

第5学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 体験したことを分かりやすく伝えよう
わたしたちの学校生活 「書く」ということ

2 指導観

- 高学年で身につけさせたい書き出し・書き表す力

- | |
|------------------------------|
| ○ 事象と感想，意見などを区別して書き表す力 |
| ○ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力 |

- 本学級の児童の実態

本学級の児童は、書く活動において、1学期単元「依頼の手紙・お礼の手紙」で、依頼状や礼状の形式を整えて書くことを学んでいる。また、「言葉の研究レポート」の単元では、取材の仕方を学習し、レポートを書くために自分が集めた材料をカードに整理し、見出しを工夫したり組み立てを意識したりして書くことを学ぶことができた。日常的には、視写やひとこと日記を書くこと、各教科で学習のまとめを自分の言葉で書きまとめる活動など書き慣れるための取り組みを取り入れている。

しかし、未だ書くことにとっても抵抗があり、自分の考えや意見を思うように書いて表現することができない児童も多い。書く活動の際に、なかなか書き出せなかったり、途中で手が止まってしまう児童も多数いる。また、文章を書き上げても、「おもしろかったです。」「楽しかったです。」といったありきたりの表現にとどまっていたり、書き出しがいつも「今日は～」「私は～」で工夫があまり見られない。読み手に自分の考えがうまく伝わるように効果的な組み立てを考えたり、必要に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることまで意識されておらず、書き出し・書き表す力が十分についているとは言い難い実態である。

児童にアンケートを行った結果、次のような結果が得られた。

- 1 国語の学習の中で、好きなものに○をつけてください。(複数回答可)

話す・聞く… 16人 書く… 22人 読む… 17人

- 2 あなたは、文章を書くことが好きですか。また、そう答えた理由も教えてください。(複数回答可)

好き… 7人 どちらかという好き… 22人

- ・書くことで自分の考えをよく知ってもらえるから … 12人
- ・書きたいことがすぐ決まるから … 10人
- ・よく伝わる文章にしようと思えるのが楽しいから … 13人
- ・後で読み返したり、もっとよくしようと思えるのがおもしろいから … 12人

嫌い… 1人 どちらかという嫌い… 8人

- ・書いたものを読まれるのが恥ずかしいから… 2人
- ・書きたいことがなかなか決まらないから … 8人
- ・よく伝わる文章にしようと思えるのが面倒だから … 1人
- ・後で書き直したり、読み返したりするのがいやだから … 4人

- 2 文章を書くときに、難しいなと思うことはどんなことですか。(3つまで)

- ・何のために書くのか意識して書くこと… 11人

- ・書きたい事柄の中から、必要なことだけを選んで書くこと… 17人
- ・文章の組み立てをよく考えて書くこと… 25人
- ・見たこと・起こったことと感想・意見を分けて書くこと… 11人
- ・詳しく書くところと簡単に書くところをよく考えて書くこと… 7人
- ・書いている途中や書いた後に読み直して、よりよい言葉を選んだり、文章表現を考えたりすること… 13人

このアンケート結果から、子供たちは書くことが比較的好きで、自分の文章をよりよくしようと言葉を選んだり、文章表現を考えることにおもしろみを感じていることが分かる。しかし、裏を返せば、文章を書く上での工夫・改善の方法を知らなかったり、思うようにいかなかったりして自分の考えをうまく伝えることができないと書くことの意欲が損なわれることにつながると考えられる。

やはり、子供たちが意欲的に書く活動に取り組むには、自分の考えを読み手に分かるように伝えるための記述段階での指導が必要であると思われた。

○ 本教材の価値

本単元「体験したことを分かりやすく伝えよう わたしたちの学校生活 「書く」ということは、5年生になって体験したことの中から伝える価値のある内容を選び、相手意識・目的意識を確かにしながら、自分の考えを文章で書き表していこうというものである。

5年生での大きな行事となる自然教室で学んだことを作文の題材とし、それを4年生に伝えていくという学習の構えを初めの段階で持たせることは、子供たちの意欲を高めることにつながると考える。

ここでは、カードに書くといった取材段階だけでなく、そこから何を重視し、何を重点的に詳しく書くかといった構成指導や、普段なかなか時間を割く機会の少ない実際の書きぶりにまで目を向けた記述段階の指導を中心に行っていく、書く活動を段階的に指導するようにしていく。

本単元で5年生になって学んだことや体験したことの意味を文章に書き表し、誰かに伝えていくという活動は、自分のこれまでの学校生活を振り返り、自分自身を見つめ直すきっかけにもなると考える。

○ 本教材で身につけさせたい書き出し・書き表す力

- 読み手が引きつけられるような文章にするために、組み立てを工夫したり、簡単に書くところと詳しく書くところを意識して書いたりする力
- 事例と自分の考えとのつながりを確かめ、事例と意見とを分けて書いたり、効果的な書き出しや文末表現を活用したりする力

○ 書き出し、書き表す力を育てるための指導のあり方

指導に当たっては、次のような支援や手立てを取り入れていく。

<導入段階>

初めに、5年生の活動について他学年から話を聞いたことで「とてもよかった・ためになった」ということはないか考えさせる。そして、自分たちも学んだことを伝えることで誰かの役に立たないか考えさせ、5年生の一番大きな行事と言える自然教室で学んだことを4年生に伝えていくことで目的意識・相手意識を持たせていくようにする。

自分たちも「いったいどんなことを学べるんだろう。」「どんな意味があるのだろう。」と思っていた自然教室について、6年生から話を聞いたことで安心して、そして活動の意味を考えながら自然教室に臨むことができたという経験を持たせることによって、同じように役立つことを自分たちもやってみたいなという意欲につながると考える。

<取材段階>

自然教室で体験したことやそれについての感想を図にまとめておき、さらにそれを付箋紙やカードに書きまとめて整理しておくようにする。自然教室で一番伝えたいことをピンクの紙に、それを説明するためのエピソードを緑の紙に、自然教室の概要を水色の紙に書き、色分けして一目で内容が分かるようにする。

付箋紙やカードを使うことで、構成段階でまた同じことを書くといった手間も省け、児童の書く意欲をそぐことなく活動に取り組むことができると考える。

エピソードと自分の伝えたいことがはっきりしたら、「学んだこと」の内容ごとにグループを編成し、エピソード（事例）と自分の伝えたいことのつながり確かめるための対話活動を取り入れていく。このときに、4人グループをつくり、初めは同じ内容（学んだこと）同士で対話をし、事例とのつながりを検討していくようにする。そのあと、違う内容（学んだこと）で対話をし、もっと適切な事例はないか見直していくようにする。

<構成段階>

モデル文を通して、自然教室で学んだことを分かりやすく伝えていくためには自分の考え、それを裏付ける事例（エピソード）、簡単な自然教室の概要などの要素が必要であることに気づかせていく。さらに、そのモデル文や練習学習を通して、読み手が引きつけられるような文章にするには、どんな順序で、どう書き出せばいいか考えさせていくようにする。（練習学習①）

<記述段階>

練習学習を取り入れ、必要に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事例と意見を分けて書いたりすることができるようにする。練習学習で学んだことは模造紙に書いて掲示し、振り返ることができるようにしておく。また、練習学習と自分の作文を書く時間を交互に組み込み、事前の練習学習の内容を自分の作文の中ですぐに生かせるようにする。（練習学習②）

<推敲段階>

チェックプリントを準備し、観点ごとに自分の文章を見直していけるようにする。

観点：書き出しの工夫がなされているか。

自分の考えと事例（エピソード）が書き分けてあるか。

詳しく書かれているところ、簡単に書かれているところが合っているか。

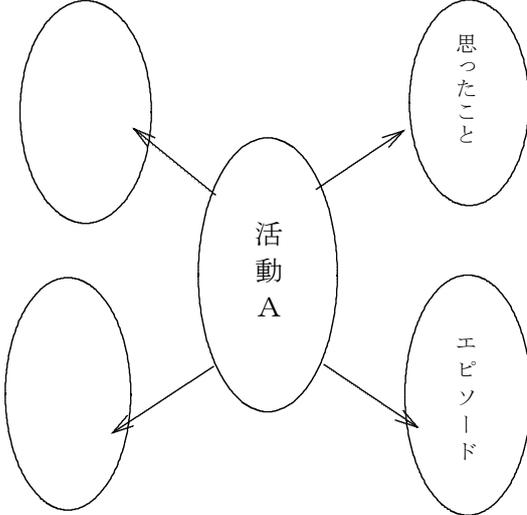
3 単元目標

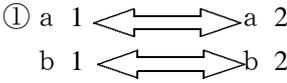
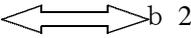
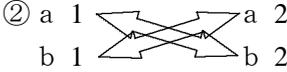
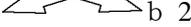
- 学校生活で体験したことや学んだことを目的意識・相手意識を持って分かりやすく文章で伝えようとする。
- 伝えたいこととエピソードのつながりを意識しながら効果的な組み立てを考えることができる。
- 一番伝えたいことがよく分かるように、工夫した書き出しや文末表現を考えたり、必要に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりすることができる。
- 観点にしたがって、自分の文章を見直すことができる。

4 学習計画（全9時間 書く…8時間 読む…1時間）

		学習活動と内容	教師の支援※書き出し、書き表す力育成のための支援
一	1	1 単元名，リード文，教材文から単元のめあてをつくる。 ※ 単元名，リード文，教材文を読み，5年生で体験したことで心に残っていることを文章に表し，それを誰かに伝えていく学習だという大まかな流れをつかむ。	○ 5年生になって体験したことを生かしていく方法を考え，感動したことや学んだことをだれかに・分かりやすく伝えていこうという学習の構えを持たせていく。

5年生になって体験したことを文章にまとめ、伝える意味のある誰かに分かりやすく伝えよう。

二	1	<p>1 5年生になって体験したどんな出来事を通して、何を伝えていくのか考え、書く材料を集める。</p> <p>(1) 伝えがいのある内容を考える。</p> <p>(2) 自然教室で一番強く学んだことは何か考え、それを自分からの4年生へのメッセージ(一番伝えたいこと)として位置づける。</p> <p><メッセージ (一番伝えたいこと)の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の大切さ ・ 親のありがたみ ・ 自然の美しさ ・ 協力することの大切さ ・ ルールを守ることの大切さ など <p>(3) 自然教室で一番強く学んだことを4年生に伝えるために、どんなエピソード(事例)を取り入れていけばいいか考え、付箋紙に書き留めていく。</p> <p><エピソードの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力することの大切さを伝えるのに、調理実習で悪戦苦闘しながらもおいしい昼食をつくることができたことを取り入れる。 ・ 自然の美しさを伝えるのに、普段自分たちが過ごしている町の中と、自然教室で訪れた土地を比べていう。など 	<p>○ 5年生になって体験したことの中で、一番思い出深い出来事である自然教室にしばらく、そこで学んだことを誰に、何のために伝えていったらいいか考えさせ、相手意識、目的意識を持たせていく。</p> <p>○ 自然教室で体験したことやそれについての感想などを図にまとめておくようにする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○ 自然教室のどんな体験から一番強く学んだことを感じたのか考えさせ、取り入れていくエピソードを選んでいくようにする。</p> <p>○ 自然教室で体験したことを振り返ることで書く材料を集め、それを色分けした付箋紙やカードに書き出していくようにする。 一番伝えたいこと…ピンク色の紙 説明するための事例(エピソード) …緑色の紙 自然教室の概要…水色の紙 など</p> <p>○ 付箋紙やカードに書く際には、だらだら長く書くのではなく、端的に短い文章で書いていくようにする。</p>
1	2	<p>2 自分が集めたエピソード(事例)で本当に自然教室で学んだことが伝わるのか、「学んだこと」の内容でグループを編成し、話し合う。</p>	<p>○ 自然教室で学んだことの内容でグループ分けし、自然教室で一番強く学んだこととそれを伝えるために取り入れたエピソード(事例)がつながるかどうかをお互いに見合う。</p> <p><グループ分けについて></p> <p>はじめは、同じ内容(学んだこと)同士で対話をし、事例とのつながりを検討していく。</p>

			<p>(①の対話) そのあと、違う内容 (学んだこと) で対話をし (②の対話), もっと適切な事例はないか見直していくようにする。</p> <p>① a 1  a 2 b 1  b 2</p> <p>② a 1  a 2 b 1  b 2</p>
三	1	<p>1 モデル文や練習学習を通して、効果的な組み立てについて理解する。</p> <p>(1) モデル文を読み、作文に必要な要素を見つける。</p> <p>(2) 練習学習を通して、読み手を惹きつける効果的な書き出しを考える。</p>	<p>※ モデル文から、自然教室で学んだことを分かりやすく伝えていくためには次の要素が必要であることに気づかせていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然教室の概要 ・読み手へのメッセージ ・事例 1 ・事例 2 <p>また、読み手が引きつけられるような文章にするには、どんな順番で、どう書き出せばいいか考えさせる。</p> <p><練習学習①：効果的な書き出し></p> <p>次のような書き出し方に気づかせるために「どこから書くと読み手が引きつけられるような文章になるだろうか」と問い、例を示したり、自分でモデル文の書き出しを作り替えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然教室の概要から入る場合 ・読み手へのメッセージ (自分の考え) から入る場合 ・事例から入る場合
	1	<p>2 練習学習①を生かして、自分の作文の書き出し部分を書く。</p>	<p>○ 前時の学習を振り返り、自分の主張が相手によく伝わるようにするための組み立てや書き出しの工夫を自分の文章にも生かしていくようにする。</p> <p>○ 前時の学習内容を書きまとめて掲示しておく、なかなか書き出せない子にはそれを見るように助言していく。</p>
四	1 本 時	<p>1 練習学習を通して、効果を考えて、簡単に書いたり詳しく書いたりする。</p> <p>(1) モデル文を読み、読み手に自分の考えがよく伝わるようにするにはどう工夫すればいいか話し合う。</p>	<p>※ 朝自習の時間などを使って、事前に組み立てメモを文章化する練習学習を仕組んでおく。</p> <p>※ 悪いモデル文とよいモデル文を出して、読み手に自分の考えがよく伝わるようにするにはどこを詳しく、どこを簡単に書いたらいいか考えさせていくようにする。</p>

		(2) 練習学習を通して、どこを簡単に、どこを詳しく書いたらいいか考える。	<練習学習②：効果的に簡単に書いたり、詳しく書いたりする> 学芸会をテーマにした作文を用意し、どこを詳しく書いたらいいか考えさせ、不必要なところを削ったり、書き加えたりする。
		(3) 自分の作文でどこを簡単に、どこを詳しく書いたらいいか考え、自分の作文を見直す。	
2	2	練習学習②を生かして、自分の作文の中心部分を書く。	○ 前時の学習を振り返り、効果的に簡単に書いたり詳しく書いたりすることを自分の文章にも生かしていくようにする。 ○ 前時の学習内容を書きまとめて掲示しておく、なかなか書き出せない子にはそれを見るように助言していく。
五	1	1 書いたものを読み返し、推敲する。	○ チェックプリントを用意し、観点ごとに自分の文章を見直していけるようにする。
		2 書いたものを「自然教室ガイド」として冊子にまとめ、4年生に紹介する。	○ 書いたものを綴じて4年生の教室に置かせてもらい、それを読んでもらうことで自然教室で学んだことを伝えていくようにする。 ○ 感想カードを用意し、読んだ感想を書いてもらうようにする。

5 本時

平成 16 年 11 月 18 日 (木)

6 本時の目標

- 練習学習で学んだ、必要に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることを自分の作文に生かそうとすることができる。
- 練習学習を通して、自分の考えを分かりやすく相手に伝えるために、効果を考えて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。

7 本時指導の考え方

これまでに、子どもたちは自然教室のことを分かりやすく4年生に伝えようという目的意識・相手意識を持って学習を進めてきている。そして、伝えたいことに必要な事柄を付箋紙やカードに書いたり、モデル文を通して自分の考え（自然教室で一番学んだこと）がよく伝わる効果的な組み立てを考えて、自分の作文を書き出してきている。

本時は、自分の伝えたいことやそれを裏付ける事例（エピソード）を詳しく、不必要なところを簡単にしていくことを意識してさらに書き進めていくところである。

まず初めに、自然教室で学んだことをテーマにして書いたモデルの作文を提示する。本来ならば簡単に書かなければならない自然教室の概要の方が詳しく、自分の考えの根拠となる事例（エピソード）

の部分簡単に書かれた悪いモデルの文とそれを改善したよいモデルの文の2つである。この作文を読み返しながらか、自分の考えがよく伝わるかどうか、またこのままではなぜよく伝わらないのか考えさせ、本時のめあてをつかませていくようにする。

次に、最初に出したモデル文を自分の考えがよく伝わるようにするためには、どう書き直していけばいいか話し合う。その際に、改善した文と比較させ、どこがどう変わったのか比べていくようにする。この活動を通して、自然教室の概要を簡単に、事例（エピソード）の部分詳しく書けば、自分の考えがよく伝わる作文になるということに気づかせていきたい。

さらに、学芸会で学んだことをテーマにした作文を使って、必要に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする練習学習を行っていく。不必要なところを削ったり、どこを詳しく書いたらいいか考えたりすることで、簡単に書いたり詳しく書いたりすることをより意識させ、自分の作文の中にも生かしていけるようにする。

最後に、自分の作文にかえり、本時の学習を振り返って書き出し以降の部分はどう簡単に書いたり詳しく書いたりすればいいか見直していく。子供たちの作文を2、3紹介しながら本時のまとめを行っていくようにする。

検証の視点

- モデル文を通して、子供たちが簡単に書いたり詳しく書いたりする部分があることやその必要性に気づくことができたか。
- 必要に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする練習学習を自分の作文の中にも生かし、自分の考えが読み手によく伝わるように、自然教室の概要を簡単に、考えの根拠となる事例（エピソード）の部分詳しく書くことができていたか。
(本時だけでなく、次時に書き上げた作文を通して検証していく。)

8 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援※書き出し、書き表す力を育てるための支援
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて</p> <p>どこをどう工夫したら、読み手によく伝わる文章になるかモデル文を通して考え、自分の作文に生かそう。</p> </div> <p>2 モデル文のどこをどのように改善していけばいいか話し合う。</p> <p>(1) 2つのモデル文を比較して考える。</p>	<p>○ 自然教室で学んだことをテーマにして書いたモデルの作文を提示し、このままで自分の考えがよく伝わるかどうか考えることを通してモデル文の問題点に気づかせ、本時のめあてをつかませていくようにする。</p> <p><悪いモデル文></p> <p>自然教室の概要が詳しすぎて、自分の伝えたいことの根拠となる事例（エピソード）の部分が簡単で、読み手に自分の考えがよく伝わらないもの</p> <p>※ よいモデル文・悪いモデル文を提示し、それらを比べながら次のことを考えさせていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この文章だとよく伝わるか。 ・（よく伝わるのであれば、）初めの文とどこがどのように違うのか。 <p>※ 2つのモデル文を通して、次の点に気づかせていく。</p> <p><改善のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然教室の概要は簡単に

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠となる事例（エピソード）を詳しく ・自分の考えを言い方を変えて何回か入れる。 <p>※ 詳しく書いたところ，簡単に書いたところが視覚的にもすぐにつかめるように，部分的に色分けして提示するようにする。</p>
<p>3 練習学習を行う。</p> <p>(1) 練習学習の文を読んで，簡単に書くべき部分はどこか考える。</p> <p>(2) 詳しく書くべき部分を見つけ，どう書き直したらいいか自分なりに考え，書き直す。</p>	<p>※ 学芸会で学んだことをテーマにした作文を使って，どこを詳しく書いたらいいか考えさせていく。その際に，どうしてそのようにするのかも併せて考えさせていく。また，不必要なところは削り，よく伝わる文章に書き直していく練習をする。</p> <p>※ 今回は，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に書く部分（学芸会の練習過程）に気づかせること ・自分の考えとつながりのある事例を用いて，協力の中身を詳しく書くこと <p>に絞って，練習学習を進めていく。</p> <p>※ 詳しく書いたり簡単に書いたりする目安になるように，行数を指定したりして分量を示してやるようにする。</p>
<p>4 練習学習で学んだことを生かして，自分の作文を見直す。</p>	<p>※ どこを詳しく，どこを簡単に書いたらいいのかももう一度確認をして，見直した結果を全体に紹介していくようにする。</p>
<p>5 本時のまとめをし，次時の活動を確認する。</p>	<p>○ 子供たちの作文を紹介しながら，本時のまとめを行い，次時にもさらに書き進める時間をとることを知らせる。</p>